

講義コード	11C0116401	授業形態	講義	事前登録の有無	あり	担当教員	辻村 雅子	開講期	第2期
科目名	経済統計学2					辻村 雅子		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	<p>一国経済の現状を数値で客観的に把握するための勘定体系として The System of National Accounts (SNA、国民経済計算体系) という国際基準が作成されている。この体系は国民所得支出勘定 (National Income [and Outlay] Accounts)、国民貸借対照表 (National Balance Sheets)、産業連関表 (Input-Output Accounts, Supply and Use Tables)、資金循環勘定 (Flow of Funds Accounts, Financial Accounts)、国際収支表・対外資産負債残高表 (Balance of Payments and International Investment Position) の5勘定により構成されている。本授業ではこれらの一つずつ取り上げ、マクロ経済の捉え方について理解を深められることを目指している。</p> <p>第2期には、経済全体の資金の流れを把握する統計である資金循環勘定と、国内経済と海外との経済取引を包括的に表現した国際収支統計を取り挙げる。統計の枠組みや作成方法を紹介するとともに、観察から導かれる知見や、実践的な分析手法も学ぶ。</p>								
到達目標	資金循環勘定と国際収支統計の見方や使い方を理解するとともに、自ら経済の現状を分析できるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。授業中に提示した課題を解き、レポートとして提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】 資金循環勘定の解説 (1) 資金循環勘定の歴史</p> <p>【第2回】 資金循環勘定の解説 (2) 資金循環勘定の枠組み</p> <p>【第3回】 資金循環勘定の解説 (3) 制度部門と金融商品の解説</p> <p>【第4回】 資金循環勘定の読み方 (1) 資金運用・調達ポートフォリオ</p> <p>【第5回】 資金循環勘定の読み方 (2) 制度部門別配分比率</p> <p>【第6回】 資金循環勘定の読み方 (3) 資金過不足、金融資産負債差額と財政政策</p> <p>【第7回】 資金循環勘定を用いた分析 (1) 金融連関表の作成と応用分析</p> <p>【第8回】 資金循環勘定を用いた分析 (2) 資金循環構造の国際比較</p> <p>【第9回】 国際収支表と対外資産負債残高表の解説 (1) 国際収支表作成の歴史的な背景</p> <p>【第10回】 国際収支表と対外資産負債残高表の解説 (2) 国際収支表の歴史</p> <p>【第11回】 国際収支表と対外資産負債残高表の解説 (3) 統計の枠組み</p> <p>【第12回】 国際収支表の読み方</p> <p>【第13回】 対外資産負債残高表の読み方</p> <p>【第14回】 国際収支表と対外資産負債残高表を用いた分析</p> <p>【第15回】 総括</p>								
成績評価の方法	レポート課題 (40%) と期末テスト (60%) で評価する。								
フィードバックの内容	授業内の課題の模範解答は、翌週の授業内やポータルサイトにて発表する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『System of National Accounts 2008 (翻訳『2008年版国民勘定体系』)』 European Commission, International Monetary Fund, Organisation for Economic Cooperation and Development, United Nations and World Bank 2009年、『Balance of Payments and International Investment Position Manual, Sixth Edition』 International Monetary Fund 2009年、『資金循環分析の軌跡と展望』辻村和佑 (編著) (慶應義塾大学出版会) 2004年、『国際資金循環分析 - 基礎技法と応用事例 -』辻村和佑・辻村雅子 (慶應義塾大学出版会) 2008年								
教員からのお知らせ	経済学、統計学および Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。 課題を解く際には、実際に経済統計をダウンロードして分析するため、パソコンを利用する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
その他	「経済統計学1」の内容の続きとなるので、セットで履修することが望ましい。								